

冒頭、資料確認と議事進行の説明があり、前回欠席だった特別委員の自己紹介があった。

田中: 田中で御座います。専門はあの、国際政治と云う事で、本日の議題に関連する、キカイ(?)教育の話と、あの、具体的なムニャムニャの、宜しくお願いします。

廣川: 東京大学の医学系研究科、大学院の特任教授の廣川で御座います。私の専門はあの、生命科学。それでジウガ(?)としては細胞セルの話、神経科学、それからギョウシュク(?)のムニャムニャ。

池上委員長: どうも有り難う御座いました。それではあの、最初ですネ、前回のフォローアップと云う処で、前回向井委員の方からですネ、NASAの予算に於ける...(以下省略)

其の後、文科省の萩原補佐が資料2-1-1(NASA 予算)を6分程で説明した後、4分余の質疑応答があった。

池上委員長: あの、ご質問等御座いましたら、どうぞ。

向井: エエト、済みません。あの、私が見る範囲だけなんです、あの、探査の処に人体研究でヒューマン・リサーチとありますヨネエ。それから、先程仰った、宇宙活動の...あの、宇宙運用の処の国際宇宙ステーションの一番右に、有人探査に向けた宇宙医学研究ってなってるんですが、此処は多分あの、医学運用なんじゃないんでしょうか。あの、所謂医学の、病院なんかで言うその、臨床の部分、飛行士が上に

居る為に、あの、其の人達の健康管理をしなきゃいけないって云うのは、飛行士が病気である...あのまあ、病気になれば薬も治療も要る訳ですが、そう云う話と、所謂生理学的な、其れが其の医学運用の方に入ってしまったって居て、でまあ、私達があ、例えばあの、此れは JAXA 何かが飛行士を抱えて居る組織がやっている様な研究って云うのは、所謂トップダ...あの、プロブレム・ソルビング型の、斯う云う問題があったら斯う云う研究しましょうって云う研究であって、此処の処は運用費の中でそんなに大きくないんだと思うんですネ。で、だからあの、NASA があの、非常に力を入れて来たり、ヨーロッパが力入れてるのは、探査の処にカテゴライズされている、探査研究開発、有人の探査研究開発、人体研究、ヒューマン・リサーチ。此処の部分のお金が、実際には研究者の人達が研究...所謂ボトムアップ・サイエンスに使えるお金¹なんじゃないかなと思うんです。で、あの、私も此の研究分野を少しやって、見てみると日本は斯う云う、その、ボトムアップ・サイエンスで使える様な、ヒューマン・リサーチ

¹ 医学研究者として人体研究、ヒューマン・リサーチに興味があり、其の部分に対する予算が欧米に比べて少ないと嘆くお気持ちは理解できる。唯、考えなければならないのは、どの程度の資金投入が適切なのかであり、其の額を欧米と比較する事ではないと思う。有人惑星探査をどの位の速度で進めるのが適切なのかと云う事で、欧米にブレーキを掛けさせても低速で進める努力をするのが適切だと思う。欧米が急速に進むのであれば、日本も引き離され過ぎないだけの資金投入をしなければならなくなる。

のお金って云うのは殆ど無くて、まああの、エエトまあ、飛行士が居るから、其の問題解決型にやりなさいって云う、斯う、幾許(いくばく)かの運用費の中で見てる様な研究、まあ所謂、臨床研究ですヨネ、正直言うと。そう云う研究しか、現実的に出来てない²って云うのが現状じゃないかナァと思います。ですから、利用の成果を重く言うんであれば、やっぱりこの探査の処に入っている、人体研究、ヒューマン・リサーチ、此れはあの私も、その、(誰かの大きなくしゃみ)今年の、今議会に要求しているものと1.5倍に、コンステレーションが無くなったので、くれるって話なんで、此処の処がフアンデコウデテ(?)研究者のソウロン(?)で行くと利用の成果が出るんじゃないかと思いました。以上です。

池上委員長:ア、どうも有難う御座いました。此れですネ、どうしても斯う云う風に入ってる人体研究ですネエ。此れは寧ろその、火星に若し行くとすればどうですかって云う様なものも含まれてるんじゃないですか。

向井:あの、エエト此れは火星に行きだけでまあ、...ア、将来的には火星って云うのが入ってるんですが、所謂基礎研究として、直ぐに応用化して飛行士の治療に繋がらないかも知れないけれども、科学として面白い、例えば重力をどう云う風

に感知して人体が動いているか、ま、其れによって、その、重力が有る地球上で隠されてしまっている様な生理学を見てみるとか、必ずしも飛行士に直結してない人対象の研究ってのも有る³んですネ。で、其処の区別と、飛行士に直結して直ぐにでも飛行士の例えば選抜だとか、訓練だとか、飛行上の管理しなきゃいけないって云う、その一、医学の運用とは一寸違うかナァって云う風に思います。

池上委員長:何か他に御座いますでしょうか。...何れにしても随分幅広くてですネエ、予算の額、大きいという感じですが、それなりの理由があるんじゃないかと。感じだけですけれど。又色々あの、定法入りましたらですネ、此処でムニヤムニヤ。

² 此れも有人宇宙活動に必要な大事な科学技術であり、ISS計画に参加する以上、此の部分の手を抜く事は出来ないのであり、又、其の先に進める為の一步でもある。もう少々資金投入を増やすのが適当なのかも知れず、其れには此の様な発言が有効なので、反対すると云うのではないが、敢えてコメントした。

³ 斯う云った研究機会を確保したいという気持ちに対しては、全く反対しない。